

●京の七夕 笹竹提供 深草商店街振興会 28 日 丹波橋繁栄会 31 日

6 月末に引き続き 7 月末から 8 月初旬にかけて京の七夕の取り組みに笹竹を提供します。7 月末の 28 日・30 日、8 月 3 日・4 日・9 日の 5 日に運び込みます。すでにお届けした商店街では昨年と比べて随分と立派で大きなものになりました。笹の葉ですね。これはパンダに食べさせたいとか、大喜びの声を聞かせていただいています。高く評価していただくと、さらに力が入ります。京都を代表する新京極商店街さんや、その地域でご活躍の商店街さんなどに提供できるということは大変うれしいことです。

●第 3 回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 開橋 30 日

朝は降雨で開催が心配 9 時 30 分には曇り空の日は、未明から雨が続き、8 時ごろには雨脚が少し弱くなってきました。スタッフ集合時間 8 時 30 分ごろには小やみになりました。同時刻の久御山町には土砂降りで開催を危ぶむ状況でした。お願いしていたスタッフさんが集合して会場の川に覆いかぶさっている柳の枝の伐採を進めていただき、子どもたちの安全を計っていただきました。魚とり会場の上流部の水の取入れ地を 3 週間前に掘削いただいた所は、本流の水位が低下して新しい水の補給がされず、すっかり温水になっていました。それでも山から流れ込む新鮮な補給があつて、下流部では小魚が随分と捕獲できました。最終版で全員の捕獲数を合計すると 223 匹でタウナギ、コイ、ヨシノボリ、タモロコ、ブラックバス、カマツカ、オイカワ、ヌマチチブ、ドンコ等おなじみの魚が出ました。開会式を木津川河川流域センターで行い、ライフジャケットの装着とその必要性和本日の開催目的、学ぶということも目的なので、木津川はどんな川について約 20 分近くお話を行いました。最後の自己紹介で住所氏名年齢を述べ合つて、魚とりにでかけました。

昨日まで覆っていた予定の川は、手入れをいただいたので、すっかり見通しが良くなり安全度がアップしました。参加した親子連れは、ガサガサ取りを教えてもらって、共同で随分と上手に捕獲していました。魚合わせでも、ほとんどの子どもがしっかり集中して名前と生態を学んでいました。これまでにないまとまりが見られ集中ができていました。子どもが 11 名、親が 9 名スタッフが 20 分間でしたが、皆さん上手に流れられるようになり、目が光り輝いていました。開催するころには雨が上がり熱中症を心配しましたが、曇り続きでしたので、無事に終了できました。

●近畿水環境交流会 三川合流 さくらであい館 29 日 春から開催準備を行ってきた取り組みでしたが、出席予定者は 130 人程度の取り組みになりました。朝から熱く大変でしたが、八幡市の観光ガイドさんの案内により市内見学で男山八幡さんやエジソン記念碑そして長い石段を降りて安井橋や放生川をめぐりました。午後からは二つの講演があり、笠置の木津川を通過する東海道自然道に設置した「遊びカヌー発祥地記念碑」(高木公三郎教授に尽力とそれを支えた藤田カヌーの功績を紹介)の紹介があり、この建立にはやましろ里山の会の奮闘が紹介され、続いて近位各地から 5 つの活動紹介がありました。

●木津川生育植物管理地の名前番号札を取り付け 107 か所 8 月 1 日 終日作業実施

昨年、木津川中流部(八幡市・御幸橋から木津川市加茂町・恭仁京大橋)の生育地に明示杭を立てました。しかし、ここには番号など必要な事項を掲載できませんでした。明示杭 82 か所だけでしたので、今回は新しく発見されたものも加えて番号札を取り付け、管理が容易に行えるよう改善しました。猛暑の続く 8 月 1 日を記念にして八幡市から加茂町までの左岸と右岸に 107 か所(従来は 82 か所)に番号札の取り付けと明示杭打ちを 3 人で行いました。

午前 8 時に八幡市の 41 番のカワラサイコから始め、京田辺市の山城大橋のレンリソウで昼食時間になりました。午後は、ここから加茂町まで左岸を進み、加茂町の恭仁京大橋を超えて小谷地域を最先端として、右岸に回り下りました。山城町の泉大橋で 15 時でした。ここで一区切りとなりましたが、相談の結果、本日でやり遂げようとネジを巻きなおして、最後の番号が八幡市で右岸の一番札の杭を打ち付け終了したのが 17 時 20 分でした。昼食休憩 30 分以外は休憩時間を全く挟まないで、強行作業の連続でした。厳しい暑さの中、よくやり遂げられたなあと、達成感満足感に疲れも暑さも吹っ飛びました。

これで木津川の希少植物の管理に必要な番号が完全に設置され体制が確立できました。この資料に基づいて調査や観察、維持作業などの資料を積み上げていくことになります。画期的な前進となりました。そして新しい発見が積み上げられ里山の会の資料に一段と正確さが加わることになります。真夏日の酷暑の中、大奮闘いただきました皆様ご苦労様でした。ありがとうございました。しかし木津川堤防に設置されている距離表示板が雑草の繁茂高さに隠れて見えなかったり、壊れてなかったりするので、距離の測定が大変困難で、行きつ戻りつを繰り返し、この当たりなるだろうと推測することもしばしばでした。正確な距離表示看板の整備を望みたいものです。

●第21回里山講演会 演題について要望を確認 1：題目は「淀川流域におけるイタセンパラの現状とこれからの取組み」淀川河川事務所より説明をいただきます。2：題目として「里山管理とその役割」として、夏原グラント(平和堂)助成金審査委員の先生に依頼を進めています。そのうち1：については要請にこたえとのご返事をいただきました。続いて2：については夏原グラント事務局から要請内容が到着次第、講師派遣への働きかけを行うという力強い返答をいただきました。ご期待ください。開催日時は9月2日(土)午後1時開場で16時閉会の予定です。会場は京田辺市立中央公民館での開催となります。秋は文化とスポーツの季節といわれてきました。里山の会では文化の秋のさきがけとして第21回里山講演会を開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。

●大聖牛(水制御・堤防破壊防止装置)の設置打合せ 8月5日(土)午前10時玉水橋東詰めで実施 今週の5日(土)曜日に大聖牛による水制工の設置場所の確認を行います。一昨年は竹蛇籠の設置で魚の棲み処を作ろう、伝統工法を伝承し、地元の川を地元産の材料でいい川を作ろうと呼びかけ木津川15.2km地点に合計6基を設置しました。これには2日間で初日170人2日目100名のご参加橋梁がありました。今回は竹の切り出しを9月30日、10月1日の2日と、10月7日・8日に竹割と竹蛇籠編みを計画しています。10月21日22日の2日に大聖牛の組立完成を予定しています。一昨年の作業は数日かかって里山の会が下準備の竹の切り出しや、運び込み、竹割や節とり、滑らか仕事そして寸法切りなど相当な作業を何日も行いました。これらの仕事は相当な大作業で大仕事(延べ50人以上)でした。今回はこの事前の準備も含んだスケジュールとして募集します。

オール参加者で実施することにして、6日間の大普請となります。まさにみんなで作り上げるもので、地域の川づくりとなるものです。

●第4回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 8月6日 ここ長く降雨が見られず会場としている普賢寺川の水が無く、干上がっています。魚とりができない状態になっています。「渡しの浜」として夏休みの子どもたちに親しめる良い所と見込んでいましたが、普段の水量からして想像もしていなかった姿になってしまい、小さな水たまりが残っているだけです。普賢寺川の上流部ではしっかり水流が見られるのですが、途中で消えてしまっています。大変残念です。会場変更して実施を検討中です。加えて台風が接近中とのことで、近づく高山ダムの放水が行われ、木津川の水位が上がって子どもたちには危険度が増します。魚とりどころではなくなります。そして貯留していたダムの水ですので、かなりの汚れ水ですので、子どもたちには危険が増し、木津川全域で魚とりは不可能になります。こうした事態がクリアされるには1週間から10日は必要です。厳しい条件に見舞われます。現在10組の参加です。期待に応えようと頑張っています。

●里山農園から 8月7日午前8時から農園の整頓を行います。 キウリやトマトももうすぐ収穫が終わりの時期を迎えるようです。周囲の雑草の刈り取りを予定しています。暑い時期ですが、日程的にこの日が最も人数が集まれるようです。体力的に厳しい時期ですがお盆が近づくとともに人集め難しくなるようです。ひと時のお手伝いにお越しく下さい。お願いします。草刈り機5台用意いたします。